

# 「天のつぶ」の乾田直播栽培で 収量 650kg/10a を確保するための生育の目安

福島県農業総合センター作物園芸部稲作科

福島県農業総合センター浜地域研究所

## 1 部門名

水稻－水稻－水稻直播

## 2 担当者名

齋藤正頼、新妻和敏、佐藤弘一、吉川学、大野光

## 3 要旨

県内では、担い手への農地集積と経営規模拡大が急速に進み、水稻栽培の効率化や作期の分散が求められている中で、乾田直播栽培は有効な技術として期待されている。そこで、浜通りや中通りにおける乾田直播栽培の普及に向け、「天のつぶ」の目標収量を 650kg/10a とした場合の生育の目安を示す。

(1) 収量 650 kg/10a (篩目 1.8 mm以上) を確保するためには、穂数 470 本/m<sup>2</sup>以上、籾数 31,000 粒/m<sup>2</sup>以上が必要となる (表1)。また、穂数を 470 本/m<sup>2</sup>以上とするための 7月上旬の生育は、「茎数×葉色」の値 20,500 以上を目安とし、肥培管理の参考とする (図1)。

表1 生育の目安 (目標収量 650kg/10a の場合)

時期	項目	目安
7月上旬	茎数×葉色	20,500以上
	茎数(本/m <sup>2</sup> )	430~570
	葉色(SPAD502値)	35以上
成熟期	穂数(本/m <sup>2</sup> )	470以上
	籾数(粒/m <sup>2</sup> )	31,000以上

(注) 2022-2023年の郡山市、相馬市の試験データから目安を設定。

(注) 基肥として肥効調節型肥料 (商品名: LPコート70) を窒素成分で10kg/10a施用した。

(注) 「茎数×葉色」は茎数(本/m<sup>2</sup>)と葉色(SPAD502値)を乗じた値。

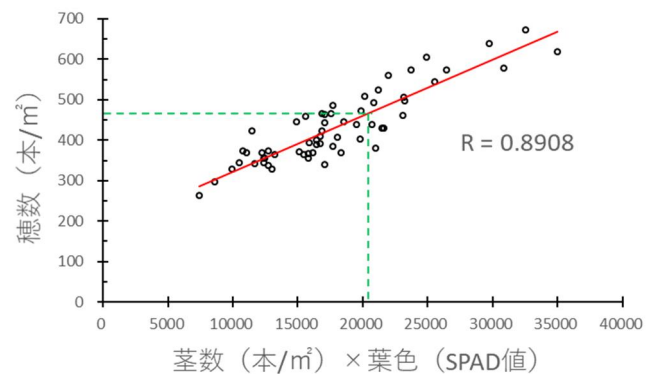


図1 7月上旬の茎数・葉色を乗じた値と穂数の関係

(注) 2022-23年 郡山市、相馬市のデータで作図した。

## 4 成果を得た課題名

(1) 研究期間 令和3~7年度

(2) 研究課題名 広域エリアを対象とした大規模水田営農における生産基盤技術の確立〔農林水産分野の先端技術展開事業 (JPJ009997)〕

## 5 主な参考文献・資料

(1) 朽木靖之・斎藤隆, 「天のつぶ」乾田直播で安定収量が得られる播種量 (平成26年度福島県農業総合センター参考成果)